

2012年10月4日・週刊きたかみ「文芸」欄では

詩誌 Coal Sack 73号発行

詩の降り注ぐ場所…「Coal Sack・コールサック（石炭袋）」8月・73号〈年3回発行〉がこのほど発行された。同社の「脱原発・自然エネルギー 218人詩集」刊行の経緯、記者会見の記録をトップに掲載。詩、詩人論、エッセイ、文芸評論、書評などを満載している。

今号では、北上の詩人の掲載はなかった。青森県の未津きみ氏が北上にも関係が深い「堅香子」「岩手県詩人クラブ」「日本現代詩人会」会員で、花巻在住の大村孝子氏の詩選集を取り上げ、「地霊の巫女 ゆきおんな」のタイトルで論評。最近、同社発行、川村杏平氏の「鬼古里の賦」の書評「東北一鬼の棲む故郷」について、東京の福田淑子氏、雫石の主濱幸彦氏が掲載3分の2は岩手県の俳人列伝の記述であり、湯田で若くして逝去した俳人、山崎和賀流についても詳細に記した。本県の昭和・平成の俳壇・歌壇が「本書によって文学史と言う時間と空間の軸を得た」とある。

と紹介されています。